



長久保 赤水

性格:明朗快活 几帳面 温厚
特技:漢詩を詠む

西暦	年号	年齢	出来事
1717	享保2	1歳	常陸国多賀郡赤浜村で誕生 幼名は源五兵衛 ^{げんごべえ}
1730	享保15	14歳	医師で漢学者の鈴木玄淳の塾に通う
1738	元文3	22歳	水戸藩の儒学者で彰考館総裁を務めた名越南溪 ^{なごやなんけい} に入門する
1739	元文4	23歳	はとこの順と結婚
1751	宝暦元	35歳	日本地図を作り始める
1760	宝暦10	44歳	東北に地図の検証の旅に出る
1767	明和4	51歳	ベトナムに漂流した水戸藩の船員を引取りに長崎へ行く
1768	明和5	52歳	「改製日本分里図(輿地路程図草稿)」が完成 学問の功により水戸藩の郷土格(武士待遇)に取り立てられる
1773	安永2	57歳	藩政に関する意見書『弱菟談』を著す
1774	安永3	58歳	地図の完成に向けて識者の意見を得るため京・大坂を訪ねる
1775	安永4	59歳	儒学者 柴野栗山 ^{しばのりつざん} が赤水の依頼を受け地図の序文を記す
1777	安永6	61歳	藩主 徳川治保 ^{はるもり} の侍講となる 赤浜村を離れ、江戸の水戸藩邸に住む
1778	安永7	62歳	農政改善のために『農民疾苦』を上書する
1779	安永8	63歳	「改正日本輿地路程全図」が完成
1783	天明3	67歳	清国の地図を製作
1784	天明4	68歳	頼春水 ^{らいしゅんすい} が赤水を訪問する 古川古松軒 ^{ふるかわこしょうけん} と知り合う
1785	天明5	69歳	世界地図を製作
1786	天明6	70歳	『大日本史地理志』の編集に従事する
1797	寛政9	81歳	赤浜村へ帰る
1801	享和元	85歳	赤浜村の自宅で死去 没後十日目に伊能忠敬第二次測量隊が赤浜村を通過



伊能 忠敬

性格:倏約家 凝り性 根気強い
特技:数学

西暦	年号	年齢	出来事
1745	延享2	1歳	上総国山辺郡小関村で誕生 幼名は三治郎
1762	宝暦12	18歳	下総国香取郡佐原村伊能家の婿養子となる 名を忠敬と改める
1778	安永7	34歳	奥州松島に旅行し『奥州紀行』を記す
1783	天明3	39歳	天明の大飢饉で、私財をなげうって地域の窮民を救済する
1793	寛政5	49歳	伊勢神宮と関西に旅行し『旅行記』を記す その際、諸地点の方位角や緯度を計測する
1794	寛政6	50歳	家督を長男景敬 ^{かげたか} に譲り隠居 名を勘解由 ^{かげゆ} と改める
1795	寛政7	51歳	江戸深川黒江町に移住し、幕府天文方高橋至時 ^{としとき} の弟子となる
1800	寛政12	56歳	第一次測量 北海道南部沿岸などを測量
1801	享和元	57歳	第二次測量 伊豆・東北東半部などを測量 赤水没後十日目に、赤浜村を通過
1802	享和2	58歳	第三次測量 東北西半部・新潟などを測量
1803	享和3	59歳	第四次測量 中部・北陸・佐渡などを測量
1804	文化元	60歳	師 高橋至時死去 「日本東半部沿海地図」を幕府に提出し、將軍家斉の上覧を受ける 幕臣に登用される
1805	文化2	61歳	第五次測量 紀伊半島・中国地方などを測量(～1806)
1808	文化5	64歳	第六次測量 淡路・四国・奈良などを測量(～1809)
1809	文化6	65歳	第七次測量 九州東半・南部などを測量(～1811)
1811	文化8	67歳	第八次測量 屋久島・九州西半部などを測量(～1814)
1815	文化12	71歳	第九次測量 伊豆諸島などを測量(忠敬は不参加)(～1816) 第十次測量 江戸府内を測量(一回目)
1816	文化13	72歳	第十次測量 江戸府内を測量(二回目)
1818	文政元	74歳	江戸八丁堀亀島町の自宅で死去(ただし公表はされず)
1821	文政4		弟子たちにより「大日本沿海輿地全図」及び、『大日本沿海実測録』が完成 孫の忠誨 ^{ただのり} によって幕府に上呈 上呈後忠敬の死が公表される

※年齢は数え年で表記しています。